



第一礼拝次第

メッセージ: 渡真利彦文牧師

前奏			
頌栄	540	会衆	
主の祈り		会衆	
プレイズ	「主の山に備えあり」 「あなたは」	会衆	
聖書朗読	詩編26編 (旧約聖書 p856)	司会	
祈禱		司会	
賛美	新生6	会衆	
メッセージ	「大切なもの」	牧師	
祈禱		牧師	
賛美	新生627	会衆	
献金祈禱			
報告		司会	
頌栄	新生672b	会衆	
祝禱		牧師	



第二礼拝次第

メッセージ: 郭永東牧師
司会: 渡真利彦文牧師

聖書: マルコ3:1-6 (新約聖書 p65)
メッセージ: 「安息日の意味」
プレイズ: 「神の家族」「主の栄光宮に」
賛美: 新生26 新生386



ファミリー礼拝

メッセージ: 渡真利彦文牧師
司会: 渡真利千佳子姉

聖書: エゼキエル2:1-10
メッセージ: 「エゼキエルの召命」

<巻頭言>

「では、私の隣人とはだれですか」
(ルカ 10:29)

牧師 渡真利彦文

一人ひとりを整えること、主のお役に立つ者、この世のお役に立つ者として整え続けることが教会教育であると思うのです。

ルカ福音書10章で、「たまたま」そこを通りかかったサマリヤ人が道ばたに倒れている人を助けるというたとえが主イエスによって語られています。そもそも人が人を助けるために旅をしていたのではありませんでした。よき隣人となるぞ、と意気込んでのビジョンも計画もなく、そのための準備もなく、ましてや予算もない中で、彼は「たまたま」という偶然の状況の中で愛を示した、というたとえで

想定外、予想外の時にこそ、このたとえから「あなたも行って同じようにしなさい」という意味が深く響いてきます。私たちは聖霊が必ず働いて導かれることを信じて祈りつつ、主体的にならない限り、「たまたま」という偶然の状況でよき隣人になることなどできません。いつでも、誰にでも、予定が変わっても…という「たまたま」おこる状況に対応できなければ、私たちは自分の目の前の必要にすら応えることもできない祭司やレビ人になってしまいます。

私はこの国に、よき隣人となるキリスト者が多く出てくるようにと自戒を込めて祈り求めています。よき隣人となることこそが、教会の性質であり使命であると確信しているからです。教会教育もこの視点から取り組まれるべきだと考えています。